



GAS MUSEUM がす資料館 ギャラリー第67回企画展

文明開化と女性たち

明治の美人画展

会期: 2013年 4月 6日(土) ~ 6月30日(日)

会場: < GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第67回企画展として、2013年4月6日(土)から6月30日(日)までの期間、「文明開化と女性たち『明治美人画』」展を開催いたします。

江戸時代より錦絵のテーマの一つに「美人画」があり、時代が明治へと移っても変わらず人気を集めました。その対象は海外からの文化に影響を受けた髪型や服装、そして身のまわりの開化風俗とも描かれ、また外国人女性を描いた錦絵も登場しました。

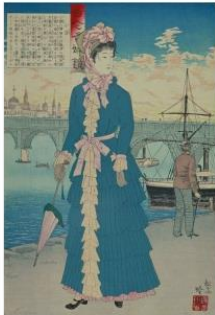
明治10年代半ばより登場した石版画では、その新しい表現方法で女性の姿を描き、それまでの木版画と比べてリアリティに富んだ、新たな女性像が登場しました。

今回の展示会では、文明開化期の日本人女性や外国人女性を描いた木版画、写実性に富んだ石版画など、明治の女性像を42点の作品より紹介致します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】



1) 古今名婦鏡 小染

安達吟光 年代不詳

「小染(こそめ)」とは、幕末に遭難しハワイに流れ着いた女性で、日本人女性としてアメリカ本土へ最初に渡った人物といわれています。

遭難のきっかけは、浦賀から船で京都・奈良へ向かう途中で暴風雨に遭い流され、後にハワイのオアフ島へたどり着きました。その地で彼女を助け世話をしたのが、アメリカ人宣教師のシャンゼーで、彼の真摯な対応に小染は尊敬を懐くようになりました。

その後シャンゼーがサンフランシスコに渡る際は、ともに付き添ってゆき、聖書に親しむ暮らしを始め、保母や家庭教師を務めるほど英語が上達しました。1880年(明治13)頃に、一度も日本に帰ることもなく亡くなったといわれていますが、真相は不明です。

「皇国」「高貴」な女性たち

【2】～【5】の作品とも、洋装で着飾った人物を描いています。特定された人物の名称は表記されていませんが、口元に鬚を蓄えた男性が、大礼服姿でサーベルを携えているところから、明治天皇をイメージさせています。そこから傍らに立つ女性は皇后晴子妃

学芸員 高橋 豊

であると考えられます。

周りの女性たちは皇族に近い方たちと考えられますが、彼女たちの服装は、ヒップ部分のふくらみが極端に強調された、「バズル・スタイル」と呼ばれました。英語の「bustle」には「せわしく動き回る」や「ざわめき」などの意味があり、強調されたヒップ部分が女性たちの動作とともに、せわしく動く様子からこの名称がついたと考えられます。

2) 皇国美人鏡

歌川国利 年代不詳

3) 皇国美人鏡

歌川国利 年代不詳



4) 皇国貴頭観花之図

楊洲周延 1887年(明治20)



5) 高貴納涼ノ図

楊洲周延 年代不詳



- 6) 第三回内国勸業博覧会
楊齋延一 1890年(明治23)



- 7) 舞踏会 上野櫻花観遊ノ図
楊洲周延 1887年(明治20)



- 8) 歐洲管弦樂合奏之図
楊洲周延 1889年(明治22)

- 9) 浅草公園遊覧之図
楊洲周延 1891年(明治24)

木炭画

木炭を画材として描線するもので、修正や加筆が容易にできます。修正の際には、柔らかい布や食パンの白い分を用いて木炭を取り込み、紙上より取り除きます。

両作品とも木炭の利点を生かし、単色でありながら描画部分の濃淡で、和服姿の女性をリアルに描いています。

残念ながら作品に描かれた人物や絵師は分かりません。

- 10) 木炭画 婦人像(円形)
作者不詳 年代不詳

- 11) 木炭画 婦人像(角型)
作者不詳 年代不詳



- 12) 硝子絵 鼓を持つ女性
作者不詳 年代不詳

- 13) 硝子絵 団扇を持つ女性
作者不詳 年代不詳

- 14) 硝子絵 扇を持つ女性(横)
作者不詳 年代不詳

- 15) 硝子絵 女性像
作者不詳 年代不詳

- 16) 芸妓小幾
金子豊吉 制作 年代不詳

- 17) 美人新聞ヲ読ム之図
福岡宗長 1888年(明治21)



- 18) 東京の名妓
渡辺忠久 1892年(明治25)

- 19) 時事新報六月附録十二月之内 杜若
五姓田芳柳 1894年(明治27)

- 20) 当世十二ヶ月之内一月 最愛之令娘
熊澤喜太郎 1891年(明治24)



- 21) 美人化粧之図
後藤彦右衛門 制作 1891年(明治24)

「東京百美人」

1890年(明治23)に開業した凌雲閣では、売り物の一つであった電動エレベーターがトラブルのため停止すると、新たな集客の目玉として、「東京百美人」と冠した女性コンテストが催されました。東京各所の芸妓から百人を選び、撮影した写真を施設内に掲出して、入館者の投票で順位を選ぶ趣向でした。

百人の写真は新聞でも紹介され、各花街がこぞって投票合戦を盛り上げ、最終的には上位人を新橋の芸妓が独占しました。

「東京百美人」(とうきょうひゃっかびじん)と記される作品は、このコンテストの影響を受けて作成されたと考えられ、【26】の「玉菊」が1位、【24】の「桃太郎」が2位、【29】の「吾妻」が4位に入っております。

- 22) 東京名所之内新橋
東京百美人之内 小もん
熊澤喜太郎 1892年(明治25)



- 23) 東京名所之内浅草公園
東京百苳美人之内 新橋おゑん
熊澤喜太郎 1891年(明治24)



- 24) 東京名所之内萬世橋
東京百苳美人之内 講武所桃太郎
熊澤喜太郎 1892年(明治25)

- 25) 東京名所之内向嶋
東京百苳美人之内 吉原吉次
熊澤喜太郎 1892年(明治25)



- 26) 東京名所之内深川八幡
東京百苳美人之内 新橋玉菊
熊澤喜太郎 1891年(明治24)

- 27) 東京名所之内吉原大門
東京百苳美人之内 吉原花沢
熊澤喜太郎 1891年(明治24)

- 28) 東京名所之内向嶋
東京百苳美人之内 菊龍
熊澤喜太郎 1892年(明治25)

- 29) 東京名所之内不忍弁天
東京百苳美人之内 吾妻
熊澤喜太郎 1892年(明治25)

「和装姿の美人たち」

男性の服装における文明開化は、警察や郵便配達夫などの制服により、人々の間に広まりましたが、それに対して女性の服装の洋風化はゆっくりとした歩みを辿りました。

宮中での服装の洋風化は1887年(明治20)のことになりますが、一般の女性の間では和服姿が一般的でした。

【31】の作品では、明治の町娘の風俗を描いており、精巧な飾りのついた簪(かんざし)を髪に挿しているところから、裕福な家の娘を取り上げていると考えられます。

一方【32】の作品は、新橋、柳橋の芸妓の一日を描いたシリーズの一つです。作品で取り上げられている

「午後五時」では、芸妓が店に向かう前の身繕いの様子を描き、その時間を象徴するものとして、街中のガス燈を点けて廻る点灯夫が描かれています。

- 30) 上野博覧会図
楊洲周延 年代不詳



- 31) 風俗三十二相 はづかしそう
月岡芳年 1888年(明治21)

- 32) 新柳二十四時 午後五時
月岡芳年 1880年(明治13)

「髪型の文明開化」

男性は1871年(明治4)に「断髪令」が出され、丁髷(ちょんまげ)廃止を打ち出しましたが、女性の髪型には大きな変化はすぐには起きませんでした。1885年(明治18)に医師の渡辺鼎が、油を使い髪をまとめ上げる従来の日本髪が健康を害するとし、「婦人束髪会」を起し、西洋髪を参考にした「束髪(そくはつ)」を提案しました。

「束髪」とは髪を結び上げてまとめる髪型で、油を使わず自身で行え、洋装にも合うところから全国の女性の間に広まりました。

分かりやすいよう髪型を紹介する錦絵も発行され、【33】の作品では、髪型の名称も「マーガレット結び」「イギリス結び」「西洋下げ髪」とあり、年齢に合わせた髪型も紹介されています。



- 33) 改良束髪之図
歌川国梅 1885年(明治18)

「東京新開名勝図会」

1879年(明治12)に歌川芳虎が手がけた、東京各所の橋をテーマに取り上げたシリーズです。各作品とも橋のある風景を背景に、「浅草山谷橋」では吉原花魁、「蓬莱橋」では新橋芸妓、「吹上つり橋」では宮中の女性、「海運橋」では町娘と、場所に関連する女性を取り上げられています。

作品の周りには開化を象徴するものとして、ガス燈と電柱と電線が取り囲んでいます。



- 34) 東京新開名勝図会 浅草山谷橋
歌川芳虎 1879年(明治12)
- 35) 東京新開名勝図会 蓬来橋華族銀行
歌川芳虎 1879年(明治12)



- 36) 東京新開名勝図会 吹上の御庭つり橋
歌川芳虎 1879年(明治12)
- 37) 東京新開名勝図会 海運ばし第一国立銀行
歌川芳虎 1879年(明治12)

「象徴」としての女性像

【38】の作品は、東海道の名所を画題に取り上げたシリーズの一つです。

1872年(明治5)に制作された作品では、かつての宿場であった「神奈川」の名称を挙げながら、開港地「横浜」に関連した画題も取り上げています。左上には神奈川の名産「亀甲せんべい」が描かれ、中央には、横浜の外国人居留地をイメージしてか、帆船の浮かぶ街並みを背景に外国人女性が描かれています。この作品でも開化を象徴するものとして、郵便ポストと電柱が描かれています。



- 38) 書画五拾三駅 武蔵 神奈川 横浜眺望
歌川芳盛 1872年(明治5)
- 39) 亜細亞洲之内 清朝南京
歌川芳員 1861年(文久元)



- 40) 和蘭陀人
歌川芳虎 1863年(文久3)



- 41) 外国人物尽 佛蘭西
歌川芳虎 1861年(文久元)
- 42) 万国尽 孛漏生人
歌川芳虎 1861年(万延元)

おもな参考文献

すごいぞ日本人! 続・海を渡ったご先祖様たち
熊田忠男 (株)新潮社 2009年

大阪毎日新聞 1935年

創られた女:『安政三組盃』の津の国屋お染め
白戸満喜子 「日本文学」46巻10号 1997年

写真に見る日本洋装史
遠藤武・石山彰 文化出版局 1980年

浅草十二階 細馬宏通 青土社 2001年

ガラス絵 一技法と鑑賞一 佐田勝 造形社 1973年

ガラス絵と泥絵 小野忠重 河出書房新社 1990年

図録 描かれた明治 ニッポン ～石版画(リトグラフ)の時代～
描かれた明治ニッポン展実行委員会 2002年

図録 芳年 一「風俗三十二相」と「月百姿」一
太田記念美術館 2009年

図録 没後百年 明治美人風俗 楊洲周延
(財)平木浮世絵美術館 2012年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係
TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》